

能登半島地震

被災地レポート

賛助会員 江上 美穂

今年元旦に起きた能登半島地震で被災してから早7カ月以上の月日が経った。先月末に、避難先の東京から2カ月ぶりに帰郷し、早速、輪島市街地を散策した。がれきが散乱したままで、倒壊した家屋も撤去が進んでおらず、まるで、地震が起きた時から時間が止まったかのようだ。街全体が寂寥せきりようかん感に包まれている。街中には全く人がいない。

実際に、今回の震災を機に輪島市外への移住が進んでいる。地震直後

は、自衛隊、行政組織、またボランティアの方が被災地に結集し、活気があったが、現在は、その方々も去っていき、街はまるで遺跡のようだ。ボランティアが集まらない理由として、市内の宿泊施設の不足があるそう。



輪島市内 1

いだろうか。人が集まれば、街は活気つき、結果、街も人も明るくなる。今年3月に東京に避難して以来、地に残っている父から、街の様子を聞くたびに、そのようなことを考えるようになった。皆から忘れ去られるような能登半島を何とか盛り立てて行きたい。それには、被災地に人が集まる必要がある。人が集まれば、開業する飲食店や旅館も出てくるかもしれない。そうなれば、ゴーストタウンのような街に活気が生まれる。

そして、今回能登で起きたことは、決して他人事ではない。今年能登で起こった規模の地震は、日本国内でどこでも起こり得る可能性がある。今後は、それを自分のことと捉えて、まずは地震の怖さや悲惨さを知り、そのための準備をしておくのが良いように思う。そして、能登半島地震を、将来、日本国内で確実に起こると予想されている巨大地震へ向けての教訓にしていたきたく、首都圏在住の方向けの防災ツアーを、協力者の賛同を得て企画をすることになった。

地震による被害状況や被災地の悲惨さは、実際に現地を視察した人で

なければ理解することはできないと思う。将来確実に起こると予想されている大地震。その時のために、準備しておくべきことが多くあると思う。まずは、被災地に赴き、地震による被害を疑似体験し、自分自身のことと捉えて、来たる天変地異に備えて、考えていただく機会になれば大変嬉しく思う。

能登半島地震の防災ツアーは、今年中の開催を予定しており、現在関係者との調整を行っている。

能登半島が一日も早く復興することを切に願う。



輪島市内 2

安心・安全・真心

いのち
兵士の生命を護り
災害に備える

しん わ
信和株式会社

代表取締役 田中宏明（賛助会員）

TEL 03-6228-1326

FAX 03-6228-1329

防護用品

スリーピングバッグ、簡易ベッド
レスキューベスト、搬送マット